

# 雪たね トータルサポート室からの アドバイス

元/雪印種苗(株) トータルサポート室内  
雪印メグミルク(株) 酪農総合研究所釧路駐在  
現/雪印メグミルク(株) 東日本酪農事務所

## 雪印メグミルクグループの —よい牧草作りでよい経営へ—

雪印種苗(株)トータルサポート室には、雪印メグミルク(株)酪農総合研究所(酪総研)釧路駐在が1名席を置いております。ここでは雪印メグミルクグループの企業理念を構成する『私たちの使命』の一つである『酪農生産への貢献』を具現化すべく日夜奮闘しています。具体的には「経営実証農家」および「実証圃場」の推進です。

### 経営実証農家

酪総研が北海道で取り組んでいる「経営実証農家」とは、自給飼料の生産・利活用による酪農経営の向上に関する調査研究であり、持続的酪農経営の在り方を目指すものです。「経営実証農家」の取り組み経過は以下のとおりとなっています。

第Ⅰ期(2009～2013年度):大樹町および中標津町にてそれぞれ1戸

第Ⅱ期(2012～2016年度):興部町にて1戸

第Ⅲ期(2016年度～取り組み実施中):興部町にて1戸

第Ⅳ期(2017年度～取り組み実施中):標茶町にて1戸

トータルサポート室は2015年4月に設置されましたので、トータルサポート室としての対応は第Ⅱ期取り組みの途中からとなりますが、第Ⅰ期から雪印種苗の飼養管理、植生改善の技術を調査農家で実践しています。酪総研は総合推進役として、調査全体のコントロール、データの蓄積管理、経営の分析を行なっています。調査にあたっては地域の行政、JA、獣医師などの皆さんにも協力をいただき、成果を共有することによって、当該農家の方だけでな

く、地域のほかの農家の皆さんにもお役に立てることを目指しています。会計事務所と大学の先生には経営分析のサポートや、「植生改善の経済的効果」の数値化について支援していただいています。

具体的作業は、まず定期的に調査農家へ巡回を行います。巡回では飼養管理班と草地班に分かれて、飼養管理班はBCS、跛行スコアの確認、糞洗いなどから飼養管理の状況を把握します。草地班は圃場の生育状況(冬期も確認します、写真1)やサイレージの品質、在庫量を確認します。定期巡回では、給与飼料と残飼を計量して採食量(1頭当たり乾物摂取量)も算出します。そこから飼料設計を中心に、すぐに取り組むべきアクションを検討、実行していきます。さらには植生調査、収量調査はもちろんのこと、収穫時も立会いを実施して、刈高、切断長の確認、調製量や踏圧圧縮係数の調査を行ないます。自給飼料は都度分析をして、栄養価や発酵品質をタイムリーに押さえます。そして、すべてのデータを半期ごとに開催される現地検討会(写真2)で整理して、その成果を振り返り、今後の取り組みの方向性を検討していきます。



写真1 定期巡回、真冬の圃場調査

# 『酪農生産への貢献』



写真2 白熱の現地検討会

では、今年3月に調査期間を終えた第Ⅱ期取り組みにおける5年間の総括に少し触れておきます。興部町の当該調査農家は、①鈹質重粘土というやっかいな土壌の物理性を、有機物を投入することによって改善していく、②アッパーロータリーを用いた表層攪拌による草地更新、③植生状況に合わせた追播、④牛が健康になるサイレージ作りなどを基本に経営を改善しました。オーチャードグラス（OG）、ペレニアルライグラス（PR）、アルファルファを活用、Ⅰ番草、Ⅱ番草、Ⅲ番草を“適期”に収穫することで、高品質なサイレージを確保しています。乾物摂取量1kg当たりの生産乳量が1.5kgを超え（最大は2kg）、同時に共済掛金を大幅に削減することができるほど牛の病気も減りました。牛舎は繋ぎですが、おいしいエサをたくさん食べて牛達はとっってもリラックスしています（写真3）。経営実証農家の具体的成果につきましても、本誌来月号より酪総研札幌が半年にわたって紹介してまいります。お楽しみに！



写真3 とっってもリラックス

## 実証圃場

次に「実証圃場」ですが、これは経営の追跡まではしていませんが、自給飼料生産圃場を選定し、それぞれのテーマに沿って自給飼料の生産拡大を支援する取り組みです。現在、北海道3地区、府県1地区にて実施しています。内容は、①OG・PR混播草地の栽培法確立、②OG・PR播種による植生改善、③トウモロコシの不耕起栽培、④トウモロコシ通年給与に係る取り組みです。教科書のような植生を維持する圃場もあり、広く地域へ波及させていきたいと思っています。トウモロコシの活用は生乳生産維持へ向けた一つの手法です。また、近年天候の不安定化が著しく、天候リスクを踏まえた自給飼料作りも必要となっており、その対応も考えていかなければなりません。

## おわりに

最後に、トータルサポート室雪メグ班は、酪農現場で生産者の皆さんとお話することも大事だと思っています。こちらは酪農現場で起きていることを知り、生産者の皆さんには乳業が、生乳需給が、乳価が、牛乳が、乳製品が、どうなっているのか知っていただくこと。実に簡単なことのように思いますが、これが今できていないように思います。これからもドンドン現場に出ていくぞ!!

さて、私事ではありますが、本稿を作成中に他部署へ転任となりました。釧路駐在は2年3カ月でありました。誌面をお借りしまして、お世話になった調査農家の皆さん、生産者の皆さん、関係者の皆さんへお礼申し上げます。ありがとうございました。トータルサポート室雪メグ班はto be continued……。☺

《つづく》